

ドコモの5G 必須特許保有数は世界第3位、通信事業者として世界首位

～5G規格の標準化活動を牽引し、Beyond5Gにおける日本の国際競争力強化に貢献～

株式会社NTTドコモ(以下、ドコモ)は、株式会社サイバー創研の調査「5G標準必須特許に関する主要技術・サービスの開発動向について評価・分析」(以下、本調査)において、第5世代移動通信方式(以下、5G)のサービスを提供する際に必要な5G標準規格で必須の特許(以下、5G必須特許)の保有数が世界で第3位であり、世界の通信事業者の中では首位と評価されました。2020年10月の調査結果の世界第6位から順位をあげたこととなります。

本調査は、情報通信分野の主要プレイヤーが5G標準規格に必須であると国際標準化団体に宣言・報告している特許について、真に5G標準規格に必須の特許であるかを客観的に評価し、現実の5G必須特許の保有数を推計したものです。

本調査で推計された5G必須特許の保有数は、各企業が5G必須特許と自己申告した特許件数を単純にカウントするよりも正確な5G必須特許の保有数であると言えます。また、5G必須特許の保有数は、5G規格の標準化活動に参加する企業の技術的な貢献度を示すバロメーターであり、本調査はドコモの技術力が5G規格の標準化活動を牽引していることを示しています。

ドコモは、標準化活動において、通信事業者として最も多い約5,900件^{※1}の技術提案(寄書)を行い、5G標準規格として採用された累計で約1,300件^{※2}の技術を必須特許として宣言しています。例えば、5Gのユースケースとして注目されている自動車から通信ネットワークへの通信や自動車から他の自動車への車車間通信の優先度を柔軟に制御し、5Gの特徴である超高信頼・低遅延通信を実現するV2X^{※3}、また、通信端末から多数の基地局へ円滑な通信を行うために必要な情報をタイムリーに通知し、より高速・大容量な5G通信を実現するMIMO^{※4}などの提案および必須特許の宣言を行っています。

国内においては、総務省が、Beyond 5Gの早期かつ円滑な導入およびBeyond 5Gにおける国際競争力強化をめざして「Beyond 5G推進戦略 -6Gへのロードマップ-^{※5}」を策定し、産学官が共同で戦略的な知財取得・標準化に取り組めるように、2020年12月に「Beyond 5G新経営戦略センター」を設立しました。ドコモは、「Beyond 5G新経営戦略センター」の会員として、5Gでの技術開発や標準化活動を通して得た知見を蓄えていくことにより、Beyond 5Gにおいても戦略的に知財取得・標準化に取り組み、日本の国際競争力強化に貢献します。

今後もドコモは、お客さまにより良いサービスを提供するため、またモバイル通信の未来を切り開くため、研究開発や標準化活動に取り組んでまいります。

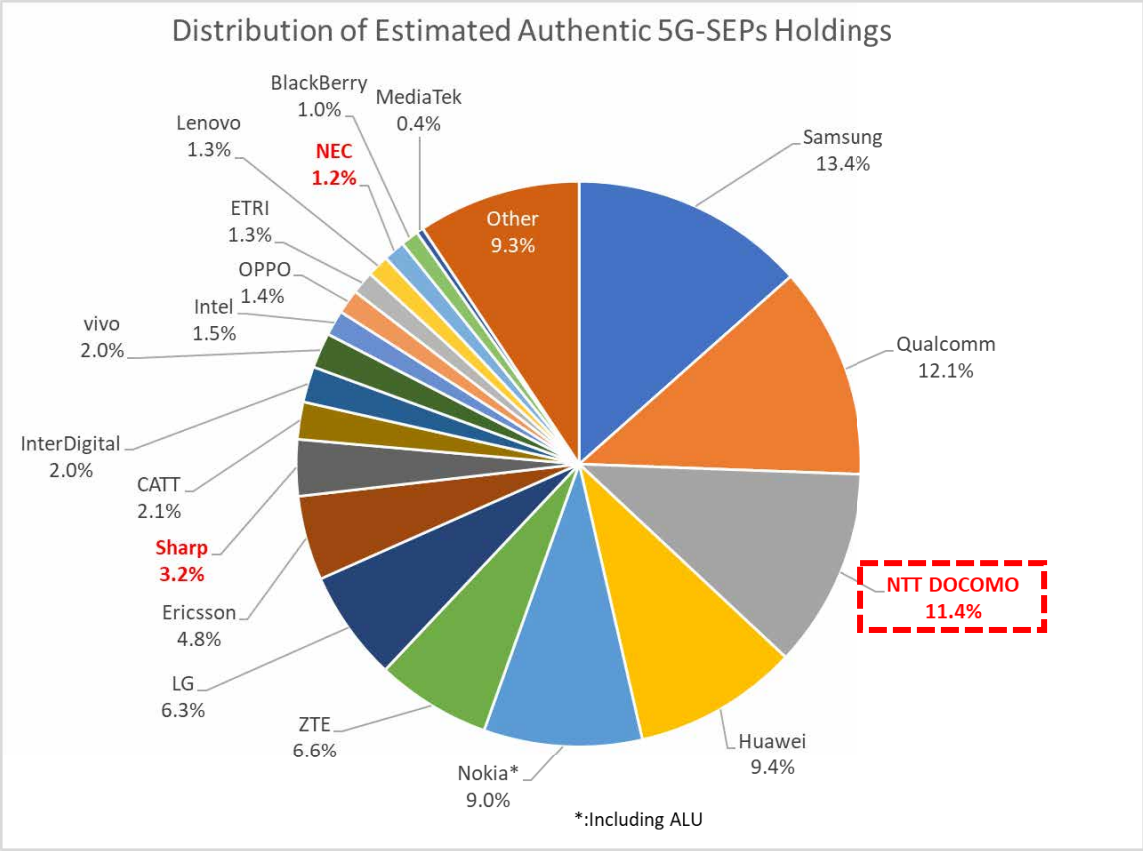
- ※1 世界で10位（本調査でのサイバー創研調べ <https://www.cybersoken.com/blog/topics/2021/04/02/2889/>）。
- ※2 5G規格関連の特許出願ファミリーは約2,800件。その内、必須宣言をした件数が累計約1,300件。
特許出願ファミリーとは、同じ発明を複数の国へ特許出願した場合のそれらの特許のグループ。
- ※3 Vehicle to Xの略。車と、あらゆるモノの通信、相互連携を円滑に行う技術。
- ※4 Multiple-Input and Multiple-Outputの略。送受信双方で複数アンテナを使い通信品質を高める技術。
- ※5 総務省「Beyond 5G 推進戦略」 https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban09_02000364.html
- * ドコモの標準化への取り組み <https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/technology/rd/tech/standardization/>

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

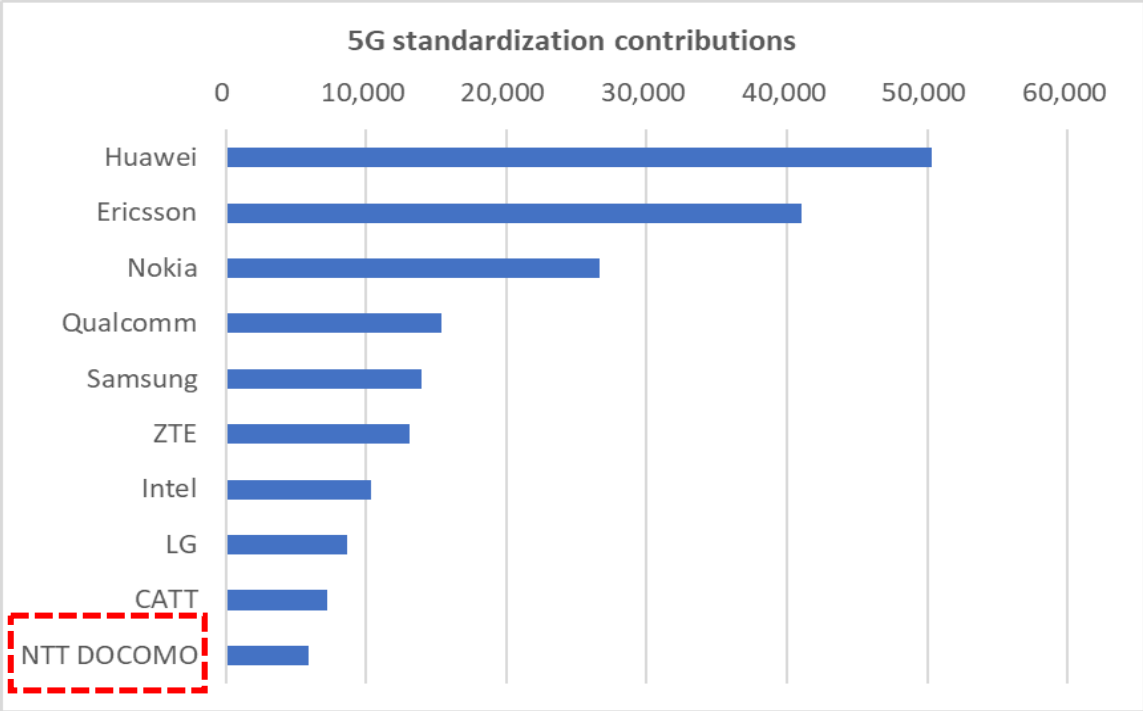
株式会社 NTT ドコモ 知的財産部 権利化担当 TEL: 03-5156-1776
--

参考

1. 5G 必須特許の保有状況



2. 5G 標準化主要プレイヤーの技術提案数



出典: 株式会社サイバー創研 プレスリリース(2021年4月2日発表)
<https://www.cybersoken.com/blog/topics/2021/04/02/2889/>